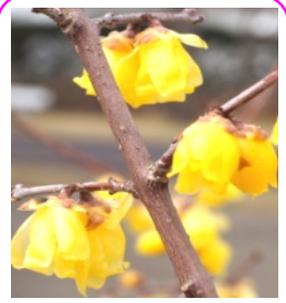


ぎやらりー わ

NO.69 2015年1月号

編集・発行 NPO法人グループわ (堺 汎) ホームページ <http://www.wa-net.jp>
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL078-743-8101 FAX743-3830



●花の村内散歩
蠟梅(木村成男撮影)



笹かまぼこを手に、笑顔いっぱいのカレッジ学生 木村成男撮影

阪神から東北へ…震災シンポ開催

阪神大震災20年と5年目を迎える東北支援活動を記念してグループ〈わ〉は1月16日、カレッジホールで市民福祉振興協会と、震災支援シンポジウム「阪神から東北へ 交流・連帯・絆」を開催しました。

女川町長・須田善明氏ら7人の講演・体験報告のほか、記録映像の上映、パネル写真展、東北物産販売などを実施。400人の参加者は、「阪神大震災の経験を伝え、東北被災地への関心を風化させず、将来の巨大災害に備えよう」との思いを新たにしました。=2~4面に関連記事 (広報・井口久美子)



ボランティアの
輪をひろげよう

contents

女川町長熱き思いを語る (4面に講演要旨)

福祉ボランティア大会	5面	読者アンケート	9面
活動レポート	6面	カレッジだより	10~11面
連載 介護保険②	7面	WAからのお知らせ	12面
ボランティアの心 徳原	8面	かねも広告	14面

5月16日
「わ」総会

神戸だからできる交流を

震災支援シンポ「あの時・これから」



写真左から 須田善明氏
金川章三氏 渡辺由和氏
吾郷信幸氏 金芳外城雄氏

講演・体験談…400人が共感

「阪神から東北へ～交流・連帯・絆」をテーマにした震災支援シンポジウムは16日午後1時、古後健一（福18）の司会で開会。堺汎理事長が5年目を迎える東北支援活動への意欲をこめて新年の抱負を述べました。

次いで、女川町長・須田善明氏が「女川町の今」と題し、復興状況を説明しながらコンパクトシティの構想を示し、「千年に一度の町づくりをしたい」と、42歳の若い町長らしい熱い思いを語りました。

第1期生の金川章三氏は「大震災で村の温泉が開放され入場者の整理を手伝った。多い時は3000人も押し掛けた」という体験談を披露。カレッジ再開に奔走した渡辺由和氏（元課長）は、ボランティアの有志をまとめ、グループ〈わ〉誕生に漕ぎつけるまでのエピソードを明かされました。

第5次メンバーが活動報告

この後、第5次隊の支援報告が行われ、市民福祉振興協会の吾郷信幸氏は、救援募金・応援メッセージ、音楽やパフォーマンスによる被災地訪問など、4年間の協会としての活動を振り返り、「神戸だからこそ出来ること」をこれからも続けたい、と強調しました。

次いで第5次チームの記録ビデオ（15分）が上映され、子供たちや住民の皆さんとの和やかな交流風景が大画面いっぱい映しだされました。波多野武郎（食16）と橋野美子（わ会員）が5日間の活動を振り返り、女川の2つの保育所を初めて訪問したこと、スポーツ大会や料理交流会が大変喜ばれたこと、女川小・閑上小の子供たちとは顔なじみになり歓迎されたことなどを報告。会場の共感を呼びました。

NPO神戸の絆2005の金芳外城雄氏は、「近い将来に予想される巨大地震にどう備えるか」と題し、防災・減災の専門家の立場から、珍しい映像を織り込んで生活防災や自助・共助の大切さを訴えました。



ここで協会チームの体操メンバーが登場。会場の参加者と軽くストレッチ体操やって体をほぐし、みんなで「花は咲く」を歌ってひと息入れました。この後、東北プロジェクトチームの南形徹（生14）が、講演で話された内容をまとめ、「東北支援を継続しよう」と訴えてシンポジウムを締め括りました。

最後に、カレッジ事務局長・藤本義兼氏が閉会のことばを述べ、午後4時散会しました。

この日、会場には現役生・卒業生ら約400人が詰めかけホールはほぼ満席になりました。ジョイラックデーでもあり、過去の報告会より現役生の参加が目立ちました。ある現役生は「被災地の現状など、いい話が聴けた」と満足そうでした。=写真④

「阪神・東北」の写真パネル展示

1Fロビーには阪神や東北大震災、東北支援活動の写真パネルが展示され、来場者が熱心に見入っていました。作品は、神戸新聞社から提供された阪神・東北被災地のもの、第5次隊が現地でも撮ってきたものなど120点です。

（東北プロジェクト 南形徹・生14）

東北の味販売・パネル展も好評

今年の東北物産は、笹かまぼこ（高政・1000円）とさんまの昆布巻（女川町・800円）を販売。11月からチラシを撒いて予約をPRしたので例年を上回る売れ行きとなりました。現役生や卒業生、わ会員の協力で、当日売りも含め、かまぼこ330箱、昆布巻210箱を完売（総額は49万8000円）。純益は東北へのプレゼントと支援活動に充当します。商品引き換えを15・16日の2日間としたためロビーはかなり混雑しましたが、〈わ〉の関係者を動員して捌きました。「蒲鉾も昆布巻もおいしかったよ」。初日に賞味したという女性からは嬉しい感想が届きました。福祉振興協会もアイスクリーム100、布製の小物30、魚の燻製20を販売。いずれも好評でほぼ完売しました。

▼震災のパネル写真に見入る参加者



震災体験を伝える集いに参加

「阪神淡路大震災20年～震災の体験・教訓・学びを次世代に伝えるつどい」が1月10日午後、三宮の勤労会館で開催され、「ボランティアの果たす役割」をテーマにしたパネルディスカッションと震災を読みつなぐ会の朗読が行われました。パネラーはグループ〈わ〉の堺汎理事長や阪神大震災当時からボランティアに関わってきた活動家5人。堺理事長は「老年パワーを生かして、子供たちの心のケアを続けたい」と東北支援の大切さを訴えました。フロアでは〈わ〉など各団体の活動記録写真が展示され来場者の関心を集めていました。

仙台・東六郷小の児童ら来村

仙台市立東六郷小の児童ら10人が神戸歴訪の途次、1月17日の夕方、しあわせの村を訪れ一泊しました。同小とは東北支援を通じて交流があり、福祉振興協会とグループ〈わ〉の関係者20人が出迎え、宿泊館

ご協力に感謝します

今回のシンポジウムは、グループ〈わ〉の東北プロジェクトチームを中心に、各理事・運営委員・区会・部会の総力をあげて取り組んだものです。8月には市民福祉振興協会にも共催を呼びかけ、講師の選定や1・17の市の行事への対応、物産販売などを共同で進めてきました。メインゲストとなる須田・女川町長にも早くからアプローチ、講演の内諾を得ました。10月にはプログラム内容を策定。11月に村内・学内にPRポスターを張り出すとともに、チラシ約4000枚を作成し市内各所に配布、PRに努めてきました。

会場設営・運営・物産販売などの実務は、プロジェクトチーム、〈わ〉の理事が手分けしてあたり大きなトラブルもなく終了しました。

入場者400人、物産売り上げ50万円という数字は、〈わ〉会員・カレッジ現役生らオールKSCが結集した賜物です。ご協力ありがとうございました。
〈東北プロジェクトチーム〉



会議室で歓迎会を開きました。一行は6年生の児童4人、鈴木一彦校長ら引率6人の計10人。16日に神戸に到着。防災未来センターなどを見学し、17日は早朝の震災行事に出席した後、小学校などを訪れ夕方村へ。18日はUSJを見学し帰途につきました。写真＝本館ロビーで絆のオブジェ前に立つ東六郷小の4人

子供たちに学用品プレゼント

女川第一・第四保育所、名取の増田保育所、名取が丘児童センターの子供たちに、折り紙・色鉛筆・画用紙・ノートなどの学用品計70点を12月中旬に贈りました。毎年、子供たちが楽しみにしているもので、代金約2万円は東北物産の収益の一部を充てました。正月明けには名取が丘の子供たちから、かわいなお礼メッセージが届きました。

2・3面シンポ関係の写真は中屋好生、木村成男撮影

震災支援シンポジウム 講演・報告の内容

若者、女性に選ばれた女川町に

◆須田善明・女川町長 「女川町の今」

女川町は仙台の東北、60kmにあり、牡鹿半島に位置します。水産業がメインの美しい港町でした。2011年（平成23年）3月11日、東北大震災で、高さ30メートルの大津波に襲われ、壊滅状態に。町の人口10014人のうち、827人が亡くなり、住宅など6511棟のうち、4316棟が壊れました。被災率は全国一です。これは1000年に一度の災害で、1000年に一度の街づくりです。住宅を造ることが復興ではない。街に暮らす人々、訪れる人々の生き生きした姿があってこそ、本当の復興だと思います。今年3月にJR女川駅が完成します。駅の半径300m以内に、病院、学校、商店、水産工場などを集めます。機能性、利便性の高いコンパクトシティを目指しています。

50トンダンプなど超大型重機で、山を削り、高台に住宅団地を造成、30区画が完成。

今、8割が住宅を建設中です。しかし、復興事業の着手率は90%、出来高は25%にとどまります。地方に「消滅都市」が激増するといわれます。都市部への人口流出と少子化のためです。女川町は何をするか。推薦、公募でワーキンググループを結成、住民が町政に直接参加しています。生産手段、施設の共有化で水産業などの復活を図っています。しかし、震災後、町民2000人が石巻市などに引っ越しました。女川町が存続する為に、新しい価値を付加し、女川町だから出来ることを成し遂げ、「女性、若者が選ぶ女川町」に全力をつくします。 * 宮城県議3期を経て2011年11月、40歳で女川町長に当選。

◆金川章三氏 「阪神大震災 あの時カレッジ生は」

1995年（平成7年）1月17日早朝、激しい縦揺れにとびおきました。テレビで見る神戸の街は無数の住宅が倒壊、その上、猛烈な火災で焦土になりました。電気、ガス、水道はストップ。惨状が明らかになるにつれ、焦燥感にかられました。

カレッジからボランティア活動に参加しないかと誘いがあり、翌日から参加。しあわせの村の温泉が無料開放されたので、その整理に回りました。2月初旬の小雪が舞う朝、10時開放なのに、7時から順番を待つ列が膨れ上がりました。「もう少し、待ってね」と声をかけると「お互い、ご苦労様」ということばが返り、日本人は捨てたものでないと感じました。その後、仮設住宅のお世話もしました。 * 国際コース1期生。北区在住。

◆渡辺由和氏 「グループ〈わ〉誕生への道のり」

震災の年の4月カレッジに着任、「卒業生はその後何をするのか」という疑問がわきました。「地域に帰り、地域のために働く」が建学の理念ですが、「今さら街のおっさんになれない」という人がたくさんいました。カレッジに居場所を作ればいい。ボランティアグループ、クラブは卒業生は参加できません。ボランティアセンターはあるけれど、うまく機能していない。ルール作りが必要でした。卒業した1期生と〈わ〉設立準備委員会を結成。7コース・専攻の代表と討議を繰り返し、1997年7月22日に設立できました。

* シルバーカレッジ事務局元課長。〈わ〉の誕生に奔走。

◆吾郷信幸氏 「神戸だからできる支援活動」

こうべ市民福祉振興協会は毎年、東北に支援チームを送っています。〈わ〉とも協力しています。震災直後には募金3700万円、応援メッセージ1万通を届け、昨年夏、女川町の仮設住宅に月下美人を贈りました。帰神後、仮設から「見事に咲いたよ」と写真を添えた手紙が届き、心底、うれしくなりました。

ことは協会職員が手作りの新年スマイルカードを送りました。「東北、忘れていないよ」のメッセージです。元気で希望が持てるよう、東北支援を続けます。

* こうべ市民福祉振興協会専務理事。東北支援隊に2回参加。

◆波多野武郎氏・橋野美子氏 「笑顔の交流楽しく」

小学校や保育所の子どもたちはハイタッチ、満面の笑顔で迎えてくれました。昔あそび、マジックで時を忘れました。90歳女性の「主人の遺骨を残して逃げ出してしまった。おじいさんに申し訳ない。今も死んでしまいたい思い」ということばに胸をつかれました。

水餃子、たこやきを「おいしい、おいしい」と食べてくださり、多くの方が「こんなに笑ったのは久しぶり」にはスタッフ一同、本当にうれしくなりました。

* 〈わ〉東北プロジェクトチーム

◆金芳外城雄氏 「巨大災害に備え 私達にできること」

地震は予知できない。だからこそ、今、備える必要がある。昨年11月の長野北部地震の死者はゼロ。奇跡といわれました。住民が結束し、互いに救助したからだそうです。

今、日本ではつながりの輪が消えつつあります。このままでは、長寿社会は消えてしまうと警告する学者もいます。困っている人に寄り添う力、苦しい問題が起きても、そこにとどまり、そこから逃げない人が真に求められているのではないのでしょうか。

* 神戸の絆2005専務理事。

(まとめ・永野知己)

この事業は「阪神淡路20年事業」として、ひょうご安全の日推進県民会議の助成を受けて実施しています。



福祉ボランティア大会 7グループが交流を図る

第3回福祉ボランティア大会は、11月18日、カレッジ学習室で開催され、約50人が参加しました。

〈わ〉の福祉部会の活動を知ってもらい、各サークルの交流を図るとともに、現役学生にも参加を呼びかけ、ボランティアの輪を広げることが狙いです。

1部はパワーポイントを使って活動紹介。友愛訪問グループは、明生園もみじ会・一寸奉仕・クレヨン・あんだんての4つで、障害者施設、福祉施設、高齢者施設を訪問、ホール遊び、大道芸、手品、合唱などを披露し、施設利用者とともに楽しんでいます。さおり・たまもは、たまも園製のさおり織を使って作った袋物や小物を売り、たまも園を支援。真愛ホーム介助は中央区の特別老人ホームで、入浴介助、花見、初詣の付き添いなどを行っています。エンジェル支援の会は手作り工房で手芸品を



製作、販売し、収益金の一部をエンジェル基金として恵まれない子どもに贈る活動をしています。

2部は友愛訪問グループのパフォーマンス。明生園もみじ会は歌唱指導を行いました。代表の宮城智子さんは84歳。参加者に配った歌詞カードは、パソコンで打ち出した。キーボードの伴奏も達者なもの。「1年があっという間に過ぎる」といいます。一寸奉仕は南京玉すだれを披露。増金スミ子さんは「笑っていただくことが大切」だそうです。クレヨン（写真）は手品、小話、合唱が得意技。「私の名前はミステリー。ミスが多いから」などと笑いを誘っていました。あんだんては、紙芝居や手紙朗読を披露。手紙では「食べ物をごぼしても、下着を濡らしても励ましの眼差しをいただきたい」とお年寄りの心情をせつせつと語りました。

3部は交流会。ある参加者は「現役学生はチラホラしかいなかった。昔に比べ、ボランティアへの意欲が後退しているようだ」、「これまでのチラシを配るだけでは来年も学生は来ない。ボランティア出前授業をやっていただけたらどうか」、「ボランティアは続けることが何よりも大事。先輩から後輩へ伝えなければ」などの声が行き交い、和やかに締めくくりました。（広報・永野知己）

好評だった学習支援講演会



「発達障害ってどんなこと？」と題した講演会が11月18日、学習支援活動の一環としてカレッジ学習室で開催され、60人が受講しました。講師は、神戸市発達障害ピアカウンセラー（精神保健福祉士）の笹森理絵氏。

笹森氏自身がアスペルガー症候群、学習障害、注意欠如多動性障害者であり、発達障害の3人の息子の母親としての、「視点の違い」「状況判断が不得手」「算数や作文は苦手」など、日常生活での事例をあげて詳しく解説。その上で発達障害者をどのように考え、どのように関わっていけばよいのかを明るく、生き生きとした様子で自らの経験を語りました。障害児の園外散歩付き添いをしている受講者は、「具体的でわかりやすい貴重な話でした。これからの活動に多いに役に立つ」と話していました。=写真④は笹森理恵氏

（広報・岡本紘一）

ロードレースにスタッフ参加

第11回北区ロードレース大会が12月21日、しあわせの村運動広場で開催され、北区会（9人）・本部（1人）が大会スタッフとして参加しました。大会は小中高生ら1350人がエントリー、学年別や親子ペアのレースが生まれ、コースとなった中央緑道は家族・仲間の声援が飛び交って寒さも吹っ飛ばす熱気に包まれました。〈わ〉のスタッフは、レース関係者と共に7時30分に集合。受付業務のほか、走路監視、クリーンキーパーなどで活躍しました。参加者は佐伯義昭・土井昭政・山口俊雄・野見嘉昭・南形徹・芦田義和・木田育義・田路義弘・北村洋・四方久幸の皆さんでした。

KSC男声合唱団 春に演奏会

3月13日（金）に、神戸文化ホール（大ホール）で、第5回演奏会を開催。「水のいのち」、「学生王子」、「君といつまでも」など十数曲を披露します。入場整理券は、TEL（090-7107-2836）FAX（078-643-3462）で、藤本誠代表までお申し込みください。

活動レポート

国際部会 学園祭に出店

今年の学園祭にシアトルクラムチャウダーとミャンマーコーヒーを出店しました。

クラムチャウダーは、神戸・シアトル姉妹都市協会の人々の援助を受けながら今回初めての出店です。「クラムチャウダーって何？」と聞かれて、「貝の入ったシチュウのようなスープです」と。



食べてみて、なかなか美味しいと好評でした。

ミャンマーコーヒーは、ミャンマーグループの人が現地から買って帰ってきたもので、少しコクがあって通の人はコーヒー粉の袋を買って帰る人もいました。

秋の好天気に恵まれシアトル姉妹都市協会の人たちとの交流もでき、来年もやりましょうと、楽しい一日を過ごしました。

(国際部会長・柳川瀬淳一 須磨区会)

銀雅「百人打ち」で交流を深める

12月6日(土)しあわせの村研修館ホールで第9回楽遊クラブ交流会銭太鼓「百人打ち」を開催。8グループ総勢120名の出演者が参加して、楽しい交流会を実施することが出来ました。



本年は南あわじ市の「紅梅の会」のグループも初参加。民謡から、演歌・懐メロ・童謡・アニメソングなど、全26曲の熱演・好演に手拍子が止まりません。児童の演技には、「可愛いね」「すごいね」などの声も出て、喜んでいただきました。

知的障害者の楽しそうな演技には、温かい拍手が送られました。高齢者グループの「明るく、楽しく、元気よく」を目指しての演技には、お互い健康で参加できる喜びを実感することが出来ました。

最後に10周年記念大会での再会を誓い合い、新たなスタートを切りました。「来年は百人打ちも10年目を迎える記念大会として、更に内容を充実していきたい」と考えています。

(楽遊クラブ銀河代表・重松豊彦 東灘区会)

北区会 旧軍港ゆかりの港町を訪ねて

11月5日“旧軍港ゆかりの港町”舞鶴訪問の北区会親睦バスツアーが実施された。暖かい絶好の行楽日和の下、谷上駅前としあわせの村に北区会員34名が集合し、観光バスに乗り込み一路北に向かった。途中篠山の“丹波並木道中央公園”に立ち寄り、舞鶴に向かい、花の寺金剛院でお寺さんの案内を受けた。そして昼食をホテルマレーたかたで

食べて、引揚記念公園、舞鶴引揚記念館、引き揚げ桟橋など全員興味深く見学した。その後世界の赤レンガが集められている舞鶴赤レンガ博物館を見学し、その後舞鶴市内が全貌できる五老岳に登った。最後に舞鶴道の駅の“とれとれ市場”で、お土産の買い物をして帰路に着いた。楽しく歴史勉強ができたツアーであった。



五老岳前にて 木村成男撮影

(山口俊雄 ・生7 北区会)

民謡クラブ 1年間の成果を披露

KSC民謡クラブは1月25日、神戸市生田文化会館大ホールで第8回発表会を開きました。現役学生の民謡同好会のメンバーも含めて80人が参加、「ふるさとの民謡」57曲と踊りなど、1年間の練習の成果を披露しました。

フィナーレは全員で九州炭坑節を舞台、会場狭しと踊り、家族、友人の皆さんともども楽しい1日となりました。

(民謡クラブ会長・待鳥孝夫 須磨区会)



上手に使おう

介護保険 ②

認定から利用まで

介護認定が得られたら、次はケアプランの作成です。要支援1・2の人は、「あんしんすこやかセンター」・要介護1～5の人は「えがおの窓口」（注・神戸市の場合）へ、ケアプランの作成を依頼します。プランの内容については、各事業所のケアマネージャーが、本人や家族と相談しながら作成しますが、その際、「①受けたいサービス、②必要なサービスは何か」を整理して、きちんと伝えることが大切です。ケアプランが出来たらサービス事業者と契約を締結。これで、サービスの利用開始です。

実際にサービスを利用する場合、利用者はサービス金額の1割を負担します。また、1カ月に利用可能なサービス金額の上限も定められています。いちばん介護度の重い「要介護5」で、1カ月360,650円（別表）。いちばん軽い「要支援1」とだと1カ月50,030円が上限です。「要介護5」と

認定されたら、1カ月あたり36,000円の自己負担で、36万円の介護サービスを受けることができますということです。決められた範囲内で、どんなサービスを使うのか、その工夫も大切な要素となってくるでしょう。

そして最後に、サービス事業所の選択です。介護サービスを提供している事業所はたくさんあるので、多くの人はずどの業者を選択したら良いか迷います。そんな時は、専門家である①ケアマネージャーに相談、②実際に事業所を訪問し、その対応ぶりを見て見るのも一案でしょう。

（次回は介護体験「私の場合」）

（堺壽代・音9 西区会）

認定結果	心身の状態の平均的な例	限度額
要支援1	家事や身支度などに支援要	50,030
要支援2	上記+排泄、入浴などに支援要	100,470
要介護1	上記などに一部介助が必要	166,920
要介護2	上記に一部、全介助が必要	196,160
要介護3	上記のほか、衣類の着脱全介助	269,310
要介護4	上記について全介助が必要	308,060
要介護5	生活全般に亘って全介助要	360,650

神戸市「あんしんすこやかガイド」・市ホームページ参照

●H27年8月から法改正により年金収入が年280万円以上の場合、利用者負担は2割に引き上げられます。

高齢フォーラム 受賞者の言葉



高齢フォーラムの表彰式が10月30日、神戸国際会議場（ポートアイランド）であり、グループ〈わ〉の2人も、

晴れやかな表情で出席しました。

増金スミ子さん（福11・前列右から2人目）は、エイジレス賞をいただいて、「今後は若い人の育成に力を入れたい。崖っぷちに花を咲かせる」。社会参加賞の楽遊クラブ銀雅・重松豊彦代表（後列左から2人目）は、「200人打ちを実現し、銭太鼓を海外にも紹介したい」と語っていました。

午後、「社会参加を加速するプラットホームづくり」をテーマに、パネルディスカッションがあり、堺汎理事長ら5人のパネリストが高齢者の社会参加などについて討論。シルバーカレッジとグループ〈わ〉の活動が大きな話題になりました。

（広報・岡本紘一）

東灘区会 幼稚園から感謝状

東灘区にある市立遊喜幼稚園で園児たちと農作業を始めて9年、11月12日で200回目の訪問となりました。園児から似顔絵つきの感謝状（写真）をもらってメンバー9人は大感激、ボランティア冥利に尽きる思いでした。園児や保護者と農園で汗を流し、サツマイモパーティーやイチゴ摘みなどを通して、農業の楽しさ、大切さを理解してもらえたと感じています。出席者も毎年増えており、継続する力が生まれてきています。



（長谷川博・生9 東灘区会）

19期生 グループ〈わ〉入会受付

1月29日（木）カレッジホールでの入会説明会に続き、1月30日、2月2日～2月4日、9日、17日の6日間に亘ってふれあいホールで入会受付を行います。皆さんの入会をお待ちしています。

ボランティアの心

ひと目千本の梅林 あと一息

花山梅林に植樹を始めて10年、おかげさまで毎年色とりどりの梅の花が、春を運んでくれるようになりました。ボランティア心のアンテナに飛び込んできた地域の課題に、一肌脱こうとみんなで会をたちあげた当初は、ここまで来られるとは思っていませんでした。次々と新しいことにも挑戦、このままあと数年、子どもたちの植樹が続けば、ひと目千本の梅林になって、神戸市一の癒しの郷になるのも夢ではありません。(写真は梅林を整備するメンバー)



これまでこの活動にかかわってくださったみなさんの知恵、そして熱意と惜しみない労力の結果です。年々増える実の収穫に、子どもたち、PTA共々うれしい悲鳴をあげています。

まだまだ社会に貢献したい、高齢化社会をマイナスと捉えない意気込み、この思いがシルバー世

代をボランティア活動に駆り立てているのでは、と思うのですが、世間的には年寄りのヒマつぶしくらいに思われているのが残念です。吹き出る汗や北区の寒風と闘い、辛抱強く作業を続けてくださるメンバーの仕事ぶりをぜひ、見てほしいものです。

私のこれまでのボランティア経験からいえば、指導者が上から目線のケースや、楽しみ、やりがいのない活動もありました。ボランティアの原点は、楽しく長く続けられること、孤独になりがちなシルバーにとって、協働で何かをするという仲間意識が必要不可欠だと思います。さらに、一休みのささやかなお茶代くらいは認められ、材料経費しか許可できないなんて、堅いことをいわない公的助成金がいただければ言うことなしなのです。

他人のために動ける体に感謝して、喜んでくれる人の笑顔を励みに、東奔西走。崇高なボランティア精神を培うべくシルバー世代は今日も行く～。

(徳原尚世・国9期 北区会)

「食・農・環境」リレートーク

「命の源 食と農と環境を考える」と題するリレートークが、10月24日午前10時からシルバーカレッジホールで開かれた。1962年のレーチェル・カーソン著「沈黙の春」や1972年のローマクラブの「人口増加や環境汚染が続けば、100年以内に地球上の成長は限界に達する」との警告が出て以来、「食」「農」「環境」への関心は高くなるばかり。カレッジ学生、卒業生、一般市民ら300を超す人が参加、講師5人のトークに熱心に聞き入っていた。



トークは①環境創造型農業の推進 県農政環境部農業改良課 西村いつきさん②都市の牧場がつなぐ夢 弓削牧場代表 弓削忠生さん③食と農をつなぐ NPO法人ひょうご農業クラブ理事長 増田大成さん④食生活と健康長寿 県栄養士会会長 榊由美子さん⑤食と農と環境を守るために私たちにできること 神戸大学名誉教授 保田茂さん。

トークを聞いた生環18期の鈴木隆美さんは「保田先生のコウノトリ農法に共感、仲間と有機農業を実践している。この農法が豊岡だけでなく、養父、八鹿にも広がっていると聞き、心強く思った」。

同じく生環18期の山田通裕さんは「講師は例年の半分の5人に絞り、内容豊かなトークをじっくりと聞け、満足した」と感想を話した。このトーク会には〈わ〉環境部会の5人が受付と場内整備を担当した。

(広報・永野知己)

奥須磨ウォークラリー大会快調

須磨区会主催の第2回ウォークラリー大会が、10月26日奥須磨公園で開催され、18チーム56人が参加しました。園内の木々は黄、赤に染まり始めており、気持ちの良い風がそよぎます。

9時30分断片的な地図を片手に、12のチェックポイントを探しながらコースを歩きつ戻りつ。ラリーにかかる標準時間は90分。長くても短くても共に減点があり、クイズを含む満点は100点。優勝はSC友が丘B(菅田忠志、西原豊さん)で95点、2位は新マジック、3位は〈わ〉本部でした。4人で参加したあんだんてチームの片岡桂子さんは、「楽しいねえ、面白いねえ」と、わくわくしながら「こっちな。いやこっちなやで!」と進み、小気味のよい日差しを浴びて森林浴を楽しみましたと話していました。



会員の96%、本誌を読んでいる

読者アンケート結果

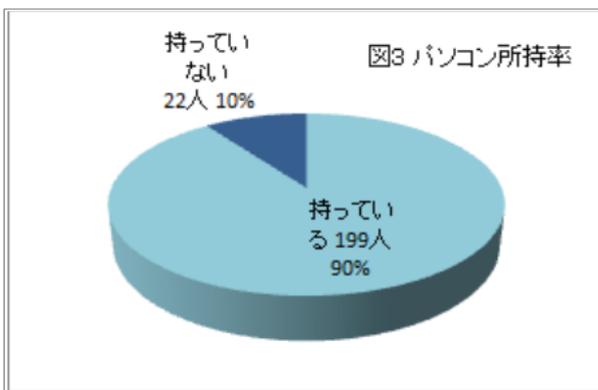
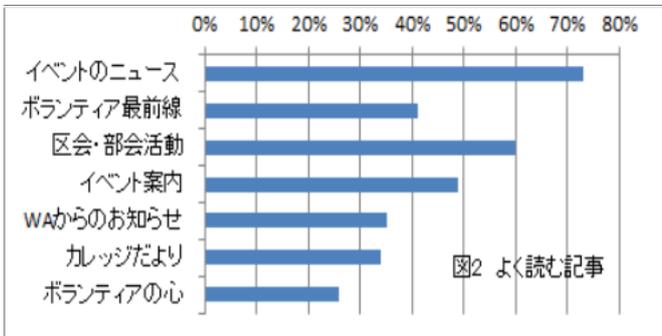
〈わ〉会員の96%が本誌を読んでいる——。広報が10月31日締め切りで行った読者アンケートの結果だ。本誌の企画、内容、レイアウトに支持が多いことも分かった。「読みやすく、一気に読む」、「面白い」、「活動の役に立つ」などのコメントも寄せられた。

2010年7月号、2013年1月号で報じた調査では、会員1300人に質問用紙を送付する形で行ったが、回答は53通、47通しかなく、本誌への関心が薄いのではないかとの疑念が残った。

そこで、今回は会員200人を無作為に抽出、質問をハガキに印刷して郵送し、78人が返送して下さった。回収率は39%。同じ内容のA4の質問用紙を作成、手渡しで、その場で書き込んでいただくという方式も実施し、144人が回答、計222人となった。

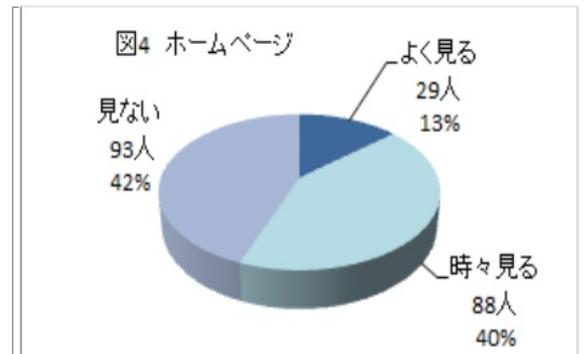
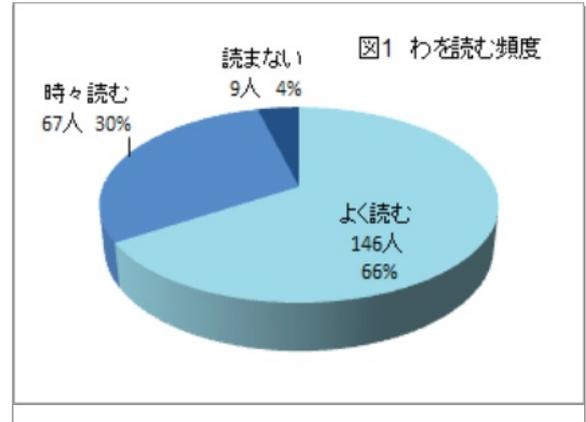
「本誌をよく読む」66%、「時々読む」30%、「読まない」はわずか4%だった。

よく読む記事は「大きなイベントを報じたニュース」



73%、「区会・部会の活動」60%、「イベント案内」49%、「ボランティア最前線」41%、「WAからのお知らせ」35%、「カレッジだより」34%だった。

ホームページへの掲載も、半数の約100人がボランティア活動の内容や紹介、イベントの開催案内、イベントの実施記録を望んでいる。「自分たちのボランティ



ア活動を知ってもらいたい」、「ほかのグループがどんなことを、どのようにしているのか知りたい」との願いがあると思われる。

パソコンは199人(90%)が持っている。「メールに文章ファイルが添付できる」は162人(73%)、「メール本文だけ利用」32人(14%)、「利用していない」は29人(13%)。パソコンを自在に操れるレベルとまではゆかないようだ。本誌を届ける方法についても現行の郵送が69%、メール配信28%となっており、これを裏付けるのではないかと。

ホームページ(HP)を「よく見る」13%、「時々見る」40%、「見ない」42%。これは、HPの存在自体を知らない、知っていても最小限の更新しかしていなかったため、閲覧する魅力に欠けていたと考えられる。

集計を終えて

HPは、今年度から、スピーディーな更新を目標に進めており、内容も正確な現状を反映させ、個々のページを作り変えた。

今後は、イベント案内(チラシ)やイベント記録(写真中心にワード、エクセルで作成)、区会報、部会報など、より多くの情報をお届けできるよう充実を図っていきたい。本誌についても、会員のみなさまの投稿やご意見、提案をお寄せください。

(広報 永野知己、岡本統一)

カレッジだより



今井学長ご逝去



シルバーカレッジ創立以来、学長を20年余り務めた今井鎮雄学長が2014年11月3日、神戸市内の病院で逝去されました。93歳。お別れの会は2月8日、ポートピアホテルで行われる予定です。

今井氏は1920年東京生まれ。同志社大学を卒業後、灘購買組合(現コープこうべ)に勤務、1948年、神戸YMCAに転じ、1963年から21年間、総主事を務めました。1993年、シルバーカレッジ学長に就任。その直後に阪神淡路大震災が発生。しあわせの村が救援基地となり、カレッジの学生らも被災者をほっておかず、自然発生的に獅子奮迅のボランティア活動を繰り広げました。このころ、「再び学んで他のために」の建学精神が培われたといえます。今井氏はこのほか、兵庫県教育委員、頌栄短大学長、神戸市社会福祉協議会理事長などを務め、幅広く社会福祉、青少年教育に尽力されました。=写真は25年10月9日、開校20周年記念シンポジウムで講演する今井学長

カレッジをこよなく愛した先生

今井氏に縁の深い〈わ〉の関係者に「偲ぶことば」をいただきました。

渡辺由和 (元KSC総務課長) 私が今井先生にお仕えたのは、震災復旧・復興事業に挫折し、心も体も疲弊しきってKSCに着任した、1995年10月から2年半という短い期間でしたが、何時も何かと気遣っていただき、優しい言葉で励ましてくださいましたね。先生とお会いしていなかったら、その後の私の人生は目標もなくただ生き永らえる惨めなものになっていたことでしょう。

私達は、先生の凜とした慈愛あふれるお姿と熱い志を、そして神戸市に賜った大きなご功績を決して忘れることはないでしょう。安らかにお眠りください。とても辛いですがお別れです。いつか、きっとお会いできることを信じて…。

飯井冴子 (元KSC事務局、〈わ〉本部事務職員) 地上での歩みを終え、主のみもとへ旅立たれた今井鎮雄学長に、心から哀悼の意を表します。

シルバーカレッジをこよなく愛し、グループわ設立をなによりも喜んで下さった先生。グループわの活動報告を、いつも満足そうに、しっかりと聞いて

くださいました。『東灘の自宅から三宮まで歩いてるんだよ』と、背広姿にスニーカーの足元を指さされていた先生の手が忘れられません。

お別れ式の時、穏やかに眠っていらしゃった先生は、ブルーのスーツにピンクのネクタイ姿で、とても素敵でした。長い間ほんとうにありがとうございました。

芳賀順子 (福10) 今井鎮雄先生の「再び学んで他のために」はKSCのOB・在校生にとって大切な教えです。その精神に従って奉仕する「グループわ」の諸活動は地域振興・災害支援・子育て支援など広く神戸市民活動の源となっています。

私は現在「賀川豊彦の語り部」をしています。その切っ掛けを与えて下さったのが今井先生です。KSC15周年記念講演会の司会をさせて頂いた後、「賀川豊彦の語り部募集」があり、今井先生に応募しないかとお誘いを受けました。私に出来るかどうか、不安で一杯でしたが、先年亡くなった郷肥三元理事長、横井幸雄さん(福11期)らと共に研鑽を積み、私なりの語り部をしています。賀川豊彦世界雲水遍路訪問先・年譜をまとめたり、賀川豊彦の伝記を書いたロバート・シェルジェン氏来日(2012年)のお手伝い、村岡花子・賀川ハル展(2014年)の開催などに打ち込み、私のライフワークは豊かなものとなっております。豊かな隣人愛の持ち主今井鎮雄先生を偲びその業績に敬意を表し追悼の言葉とします。

カレッジ副学長に服部氏

シルバーカレッジの副学長に2014年10月1日付で頌栄保育学院院長・頌栄短期大学学長の服部祥子氏が就任しました。服部氏は大阪生まれ、岡山大学医学部卒業、大阪大学医学部精神神経科入局、大阪府立公衆衛生研究所児童精神衛生課長、大阪府立看護大学教授、大阪人間科学大学教授を経て現在、頌栄保育学院院長・頌栄短期大学学長を務めておられます。このほか、中央教育審議会専門委員、教育課程審議会委員。



服部副学長の挨拶で「私もシルバーエイジ真只中にあり、これから皆さま方とともに元気に歩いて行かれますことを心躍らせつつ楽しみにしています。どうぞよろしく願いいたします」と抱負を語っておられます。

第19期グループ学習発表会

26年度のグループ学習発表会は、12月8日の健福コース・食文専攻を皮切りに2月26日の音文専攻まで、約2か月間にわたって行われます。合同発表会は、3月3日(木)です

発表日、グループ名とテーマは次の通りです

●健康福祉コース(12月11日)

- 【みちのえき 31(サーティワン)】「道の駅」で健やかライフ! 地域振興と生き生き人生を探索する。
- 【ネイチャーズ11】自然に抱かれ人生ハツラツ(シルバーが輝けば世の中明るくなるんじゃないのォー)
- 【ポケてたまるか! 歩っ歩の会】健康ウォーキングで心と体の健康づくり
- 【カレッジ朗歌隊】老化を少しでも遅らせる事やこれ以上老いない方法を学習する
- 【ライス・ナイン】ご飯を食べて健康長寿
- 【健福ときめき倶楽部】「目指せ光輝高齢者を」～3つの健康法で生き生きライフ～

●国際交流・協カコース(12月8日)

- 【チーム三位一体】日仏文化の交流～フランス人の愛した日本文化～
- 【ヘリテージ・セブン】神戸に世界遺産は?
- 【ハートフル11】日本人の価値観の変化～心の豊かさを探そう～
- 【ルミナリエの灯り研究会】ルミナリエの灯り
- 【神戸菓子】ハイカラ神戸の洋菓子店とそれをささえた人
- 【LOVE PORT 7】神戸港今昔物語
- 【南京町の今昔】南京町の歴史的発展と神戸に及ぼした影響～神戸ー横浜ー長崎の比較～
- 【マトリョーシカ】F.D.モロゾフ、V.F.モロゾフ親子への一考察
- 【ロック・アイランド】パラオ共和国～日本との係り・過去から未来～

●生活環境コース(2月6日)

- 【ピン・コロの会】環境に優しく[食&歩く]をエコに
- 【里山ルンルン】里山・里地で楽しく!豊かに!いきいきと!

【自然回帰それはセラピー猫】人が住む環境において植物的な自然と動物的な自然がマッチするためには 犬や猫と暮らす、これが人の求めている自然回帰につながると考えます

【らく楽漫遊クラブ】漫遊生きがいNa vi

【e.g a i r o】街路樹と環境

【さいげん】再生可能エネルギーはなぜ爆発的に増えないのか

【チン電】次世代型路面電車システム(LRT)

【もったいないを探ろう会】食べ物にもったいないを探ろう会 食べ物にもったいないをもう一度(驚きの食品ロスを探ってみよう)

【サンSUN】美しき最終章

●総合芸術コース美術・工芸専攻(2月13日)

【炎群人の会】のぼり窯の研究(知識習得と作品制作)

【陶器音楽】陶器による楽器の研究と製作

【陶素人】粘土半磁土による「飾り絵皿」

【干支の会】成形・装飾技法の研究

●音楽文化専攻(2月26日)

【合唱JUKE BOX】メドレー「ホームソングメドレー～ドイツ・オーストリア編～」

【パーカッションPERC19】Percussion Ensemble

「ダットン人の踊り～明日に架ける橋」

【和太鼓 鼓賑】「寒椿」松村公彦作曲

●園芸専攻(2月6日)

【1班-1】トマト

【1班-2】小生姜(金時生姜)

【2班-1】ジャガイモ(アンデスレッド)

【2班-2】メロン(パンナTF)

【3班-1】ジャガイモ(男爵)

【3班-2】ピーマン

●食文化専攻(12月8日)

【1班】シニア層の夢が膨らむ食文化～やさしいレシピがあなたに語りかけてくれる～

【2班】松花堂弁当～カレッジで覚えた男の一品～

【3班】手作り豆腐と創作豆腐料理

【4班】旬の食材にこだわった家庭料理(一汁三菜)

サポート募金のご報告(10月1日～1月7日分)

山本都子(生17)3千円、北浦俊明(生16)5千円、細野恵久(福3)5千円、野村英勝(生16)2千円、三谷祐善(生16)千円、板野武一(生16)2千円、戸田貞雄(音17)千円、山口温己子(音16)千円、久保田盛利(食7)千円、井上千加子(園15)3千円、釜田弘(国3)2千円、平尾順子(福3)2千円、大垣廣司(生15)2千円、北浦俊明(生16)5千円、広瀬範義(福18)2千円、田畑雅子(生12)千円、大谷一子(食16)千円、榊原弥栄子(生13)5千円、田中恵子(食16)千円、高津尚之(福17)3千円、有田兼光(生14)千円、水野光明(福16)2千円、高島忠義(生13)千円、堺汎(園15)5千円、永野知己(生18)5千円、中須賀毅(福16)千円、大久保洋子(福8)3千円、後藤拓代(音13)千円、後藤勝(生8)千円、加藤悦子(福3)2千円、橋岡章(音8)千円、多賀浩三(国13)3千円、早川重春(国13)千円、清水伸子(園13)3千円、平井義信(食18)2千円、沖邦輔(福14)千円、深川久美子(音5)3千円、島ノ江繁吉(生18)千円、長江修司(音16)千円、鈴木輝男(福1)千円、太田治彦(生17)3千円、淡田厚二郎(福17)2千円、松井康有(食15)千円、福井恵子(国11)2千円、櫻井幸子(生16)千円、片山洋子(生16)千円、村上徳子(生16)千円、俵貴志子

(生16)3千円、中屋好生(福17)2千円、田路義弘(生17)3千円、北村洋(生17)3千円、福田慶子(生11)5千円、高井康子(音10)5千円、須賀悦子(国14)2万3千円、古川孝友(生12)500円、橋本千代子(生16)千円、加藤勇治(美10)3千円、上野堯(園6)2千円、内田たみ子(福10)5千円、宮城智子(音2)3千円、植村勝(福14)3千円、戎井正俊(生17)2千円、津川静代(生6)2千円、内村ナナ子(国18)5千円、上辻節子(食16)千円、片岡祥夫(生17)千円、片岡桂子(音14)千円、宮崎芳江(生12)千円、岩井俊明(音6)千円、木村ノリ子(福12)5千円、三宅みどり(福15)500円、山本都子(生17)3千円、芦田義和(生15)5千円、原田隆弘(福16)3千円、津田彰子(福1)5千円、増金スミ子(福11)1万円、長谷川洗士(国11)2千円、水町亮治(生18)8千円、谷口美千代(福16)千円、江本和嘉子(食7)2万円、山口昭則(生18)5千円、高島彰太郎(音6)千円、井口久美子(福16)1万円、道井紅(福17)2千円、岡本紘一(生18)3千円、花山梅林会5千円、小原美代子(国15)千円、小畑浩昭(国16)5千円、住田暉江(食3)3千円、柳川瀬淳一(国13)千円、四方久幸(国18)5千円、堺汎(園15)5千円、吉村秀子(生17)千円、長谷川雅江(福9)千円、南形徹(生14)2200円、山本弘子(国18)5千円、植田収(福7)2千円、募金箱4万3千円、チャリティバザー3万円
=96件、378,305円。

WAからののお知らせ



花実の森に助成金約50万円

花実の森の活動に対し、今年度から「花王・みんなの森づくり」の助成金が、3年間で約50万円給付される見込みになりました。10月6日、都市緑化機構から主任研究員の小松尚美さんが実地調査に来校。申請テーマ「カブトムシの生育観察」について、堺理事長・菅田忠志代表からテーマの目的・花実の森の活動・カレッジの概要などを聴取しました。その後、整備が進む花実の森の散策コースを歩き、カブトムシの分校などを見学しました。

ジョイラックデーに「防災講座」

「大型災害に備えて」をテーマにした〈わ〉のスキルアップ講座が11月18日、カレッジ学習室で開かれ40人が参加しました。講師はひょうご防災特別推進委員・梶谷義昭氏。

阪神・淡路大震災の教訓をベースに、地震・火災・風水害・土砂災害時の「備え」、「安全対策」など、具体例を上げながら分かりやすく解説。参加者は熱心に耳を傾けていました。

●小畑副理事長・海野理事が講演 11月22日レイカディア大学（滋賀県老人大学）同窓会大津支部で、「シルバー世代の社会参加」をテーマに、〈わ〉のボランティア活動と東北支援活動を映像を交えて紹介。

「大変参考になった」「精力的な活動に感動した」と参加者に好評でした。

●ボラセンから4万円 入学式・学園祭で、グループ〈わ〉と共同で実施したサポート募金の一部、4万3千円が〈わ〉に寄託されました。賛同してくださったKSCの皆さまにお礼申し上げます。

●学園祭から3万円 学園祭実行委員会からこのほど、「活動費に役立ててほしい」と寄付がありました。前田均、宮本正弘両総務実行委員長には、堺理事長から「大切にに使わせていただきます」と謝意が伝えられました。

●廃部 ボランティアグループ わらべ（祇園明敏代表）は、部員数減少に伴い9月末で廃部となりました。

●訂正 68号1面の常磐大は常盤、13面さおり・たまも代表は永井照子、16面大正琴プリムラはSCクラブ大正琴の間違いでした。お詫びして訂正します。

●70号（4月号）の発行は2015年4月中旬です。

つぶやき

東北支援に参加して

今までボランティア活動にほとんど縁がなかった私ですが、グループ〈わ〉に入り、いかに沢山の人が、ボランティア活動を生き甲斐に人生を全うしているかを知り驚きました。

同時にシルバーカレッジの存在価値の大きさを改めて知りました。

一方、私が理事に就任した年は東日本大震災が起きた年でもあり、東北支援プロジェクトのメンバーとして支援活動に参加できたことは、良い経験になりました。2011年7月、第1次の派遣チームに加わり、65個の支援物資を4台の車に積んで14時間掛けて宮城県まで運び、その翌日から悪臭の田んぼに入り、汗まみれになってガレキを撤去する作業をやったことはいい体験になりました。

それ以降も、東北支援プロジェクトのメンバーとして活動を続けていますが、震災から4年が経過したとは言え、支援を必要とする被災者は沢山います。一人でも多くの方が支援の輪に加わって下さるよう切に望んでいます。支援募金もよろしく。（芦田義和・前理事、生15・北区会）

編集後記



★阪神大震災を契機に「再び学んで他のために」を実践する場として作られたグループ〈わ〉。「再び…」の大切さを教えて下さった今井学長は、昨秋お亡くなりになりましたが、故人の遺志をしっかりと胸に刻んで、震災シンボの講演原稿をまとめました。故人を偲ぶ会は2月8日に営まれます。（井口久美子）

★読者アンケート、「よく読む」が67%、「時々読む」を含めると96%。実施前、「よく読む」はよくて50%と予想していただけに、望外の喜びでした。みなさま、ありがとうございます。過去の先輩諸氏が、営々と積み重ねた努力が実りました。広報一同、今後とも、よりよい誌面作りをめざします。（永野知己）

★ホームページの内容の見直し、多くの方々のご協力によりほぼ完了しました。これからは内容の充実注力しますので、ご協力の程よろしく願います。伝統文化体験教室で竹の台小学校や高齢社会フォーラムなどで取材に出かけ、学ぶことが多い日々でした。（岡本紘一）

グループ わ 27 年度イベント予定

開催日時・場所	テーマ・内容と協カグループ	連絡先
5月2日(土)～6日(水) 水の科学博物館	春のイベント「和(わ)で遊ぼう」	神戸市 水の科学博物館
5月5日(火) しあわせの村 芝生広場	わいわいストリート	こうべ市民福祉 振興協会
7月25日(土) しあわせの村 芝生広場	しあわせの村まつり	こうべ市民福祉 振興協会
8月1日(土)～2日(日) 野外活動センター	夏休み「昆虫採集と標本作り」教室	こうべ市民福祉 振興協会
8月4日(火)～16日(日) (右記期間の内 12日間) 神戸市水の科学博物館	夏のイベント「和(わ)で遊ぼう」	神戸市 水の科学博物館
8月9日(日) しあわせの村 研修館	夏休み工作塾	こうべ市民福祉 振興協会

東灘区会 ふれあいフェスタに参加

東灘区会・梅一つ火会・東灘ボランティアガイドの会は、11月3日、住吉公園で開催された「東灘ふれあいフェスタ2014」に参加しました。

3日は晴天で絶好のイベント日和。われわれの出店ブースでは、展示説明・東灘非公認検定試験・アンケートを実施。展示は、「わがまち」「だんじり」「酒蔵のまち」など8点、東灘の“売り”を紹介しました。東灘非公認検定試験では「区内にある電車の駅はいくつ」「東灘区が神戸市に入ったのは何時」などの難問もありましたが、区長、市議員、PTA会長らは、さすがにほとんどが満点。皆さん、頭をひねりつつ書き込んでおり、東灘への関心が深まったと思います。アンケートは、10項目について質問、約80人が回答してくださいました。

イベント終了後、カレッジの現役学生13人(地域交流会)は、会場の清掃を担当。展示ブースの跡片付けをしながら、このフェスタはカレッジOB生と在校生の格好の交流の場だなと感じました。

(春日雅夫・生17)



検定試験に挑戦する井川区長(中央)

熱戦のグラウンドゴルフ大会

秋のグラウンドゴルフ大会が秋晴れの10月16日午前9時から、しあわせの村球技場で熱戦を繰り広げた。グループ〈わ〉主催、北区会が協力。生環15期びかびか隊、北区会1、2、3、4、西区会A、B、C、KSCグラウンドゴルフクラブ、ころころクラブ-1などの15チーム45人が参加した。

団体戦は北区会1(仲多賀男、加藤邦彦、片岡隆夫)がトータルスコア114で優勝した。個人戦は北区会1の仲さんがスコア33で優勝、とまり賞(ホールインワン)も仲さんだった。



四方久幸撮影

初めてクラブを握った女性は、最初、クラブを反対に握り、プレーしにくいので、他の選手のプレーを見て握りなおすと、スムーズに打てるようになったとか。グラウンドゴルフは、ルールが簡単で、どこでも、だれでも手軽に楽しむことができるので、すぐにゲームに溶け込めたという。

(広報・永野知己)



たんすの肥やし 11月18日ジョイラックに出店。「どれにしようか?写真㉔) お好みのデザインを選んで、スタッフと一緒に型紙作り。50人のカレッジ生が訪れ大盛況でした。=写真: 岡本絢一



神戸マラソン(11月23日)・須磨一ノ谷プラザ前を走る参加者=写真: 北浦俊明

花実の森 未来館で写真展示

未来館で、環境局主催「エコ+」企画展が6月から2015年3月までの長期にわたり、環境をテーマとした活動紹介や写真展示をリレー方式で開催されています。グループ〈わ〉では、7月に実施した「未来館のピオトープのいきものたち」の観察紹介につづき、10月18日~11月9日まで、花実の森PJが『里山に棲むカブトムシ』をテーマに、子どもたち向け環境学習の内容で写真展示(写真㉕)を開催し、多くの来館者の関心をひいていました。
(菅田忠志・生11 須磨区会)



ぴかぴか隊が環境功労賞受賞 久元市長と一緒に記念撮影

トピックス



わ主催の秋のハイク 紅葉の東お多福山~保久良神社をのんびりと歩く=写真: 四方久幸

シルバーカレッジ関係者の皆さま ご利用をお待ちしています。
ご予約の際、お申し出下されば特別価格でご提供します。



代表 森下延市(福18期)

- お料理 特別価格の一例(飲み放題込)
- | | |
|---------|-------------|
| 陶コース | 5400円→4400円 |
| 大桶コース | 5400円→4400円 |
| 寄せ鍋コース | 5400円→4400円 |
| てっちりコース | 6480円→5480円 |
- お昼の宴会 3000円から(要予約, 税別)
ご予算に応じます



阪急・JR三宮から北へ歩3分

かねも

瀬戸内魚料理

☎331-3911